

中村 雅之（なかむら・まさゆき）

1、プロフィール

1954(昭和 29)年、大沢寿夫の「点」に参加、作歌を始める。1975(昭和 47)年 6 月「縦走砂丘」50 首により第 18 回角川短歌賞受賞。「アスナロ」「未来」に入会。以後「短歌」「短歌研究」等で活躍。

<生没>

1928(昭 3)年 3 月 4 日～2025(令和 7)年 2 月 18 日

<代表作>

歌集『縦走砂丘』、合同歌集『檜の木』

<青森との関わり>

中村雅之は、昭和 3 年 3 月 14 日西津軽郡車力村の農家に生まれた。

2、作家解説

本名、中村正行。1942(昭和 17)年、車力高等小学校卒業。在学中に石川啄木、若山牧水を知り、文学に関心をもつ。1954(昭和 29)年、大沢寿夫の「点」に参加し、指導を受ける。また、菊池敏一、三橋辰雄らを知る。1955(昭和 30)年には大沢寿夫のすすめで「アスナロ」会員となり、横山武夫はじめ多くの先輩歌人の指導を受ける。

1971(昭和 46)年、「海と潟」50 首で短歌研究新人賞次席に入選する。翌年、第 1 回青森県文芸新人賞、第 8 回青森県歌人賞を受賞する。さらに同年、「縦走砂丘」50 首により第 18 回角川短歌賞を受賞する(筆名・江流馬三郎)。

<基地となる山の斜面を吹きおろす春にはいまだ遠きその声>

<貧しければひそかに売られゆく部落の低き山はらの木の香草の香>

<砂売りて生きる寂しさ山腹に木の根あらはな断層が身ゆ>

以後、「短歌」「短歌研究」誌上に随時、短歌作品及び歌論文等執筆発表する。
1973(昭和 48)年、近藤芳美主宰「未来」に入会する。大沢寿夫、尾野康憲と合
同歌集『檜の花』出版(筆名・中村雅之)。

1974(昭和 49)年、歌集『縦走砂丘』発刊(筆名・江流馬三郎)。

くたたかひの終りたる日に棚引ける雲のくれなゐ屏風山原>
く蒼黒の岬一つを見はるかすわがふるさとの七里長浜>

1994(平成 6)年、中村雅之の筆名で歌集『縦走砂丘』再版発行。その後、「未
来」「津軽アスナロ」会員となり、県内市町村における県下短歌大会の選者として
活躍した。平成 20 年及び平成 21 年の宮中歌会始では、農業への思いを歌に詠
み、2 年連続で入選を果たした。2023(令和 5)年には自作の歌から愛唱性のある
ものをまとめ、歌集『殉情小歌集』を刊行した。

90 歳を過ぎてもお現役の歌人として各種短歌会に所属し、自身の歌集を出
版するなど旺盛な作歌活動を続けたほか、県内各短歌大会の選者を務め、後進
の指導育成に尽力した。2024(令和 6)年、県文化賞を受賞した。

3、資料紹介

○歌集『縦走砂丘』

図書

188mm×130mm

第 1 歌集。あとがきに「作品の生まれた時期は、46 年 11 月、村に起こったミサ
イル射場設置問題に対する反対闘争と、48 年 3 月に行われた村長選にかつぎ出
されて敗れるという経緯があったからである」とある。この戦いで多くの人間不信、
人間信頼を経験した中村は、「いかに生きるか」を考えさせられた。何を、いかに
歌うかは「いかに生きるか」の追求に深くかわる。中村はこのことを常に念頭に
置き、作歌の基本理念としているという。